

令和6年度

第9回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和6年8月9日(金)  
開会9時35分 閉会10時10分

場 所 教育委員室

令和6年度  
第9回大分県教育委員会

**【議 事】**

- ( 1 ) 報 告  
通学区域制度検証委員会について
  
- ( 2 ) 協 議  
令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に  
ついて

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	山 田 雅 文
	委 員 (教育長職務代理者)	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
	委 員	岡 田 豊 弘
事務局	教育次長	大 和 孝 司
	教育次長	山 田 誠 司
	教育次長	武 野 太 誠
	参事監兼文化課長	三 重 野 誠
	参事監兼体育保健課長	佐 保 宏 二
	教育改革・企画課長	鈴 木 耕 平
	教育デジタル改革室	内 田 潔
	教育人事課長	吉 雄 幸 平
	教育財務課	深 藏 亮 一
	学校安全・安心支援課長	佐 藤 潔
	義務教育課長兼幼児教育センター所長	小 野 勇 一
	特別支援教育課長	坂 本 忠 史
	高校教育課長	小 野 和 正
	社会教育課 課長補佐 (総括) 兼主任社会教育主事	黒 木 哲 也
	人権教育・部落差別解消推進課長	首 藤 一 郎
	福利課 課長補佐 (総括)	鳴 海 有 紀 子
	教育改革・企画課 総務企画監	角 淵 達 彦
	教育改革・企画課 課長補佐 (総括)	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	久 知 良 周 平
	教育改革・企画課 主査	穴 見 ひ と み

### 2 傍聴人

2 名

## 開会・点呼

(山田教育長)

委員の出席確認をいたします。  
本日は、全委員が出席です。

(山田教育長)

ただ今から令和6年度第9回教育委員会会議を開催します。

## 署名委員指名

(山田教育長)

議事録の署名については、岩武委員にお願いします。

## 会期の決定

(山田教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。  
会議の終了は10時10分を予定していますので、よろしくをお願いします。

## 議 事

### 【報 告】

#### 通学区域制度検証委員会について

(13課室〔教育改革・企画課、教育デジタル改革室、教育人事課、教育財務課、福利課、学校安全・安心支援課、義務教育課、特別支援教育課、高校教育課、社会教育課、人権教育・部落差別解消推進課、文化課、体育保健課〕入室)

(山田教育長)

まず、報告第1号「通学区域制度検証委員会について」高校教育課長から説明をしてください。

(小野高校教育課長)

資料1・2ページをご覧ください。通学区域制度検証委員会について、報告いたします。

まず(1)目的ですが、本年3月に「大分県立高等学校未来創生ビジョン」を

策定しました。その中で、平成20年度入試から導入された全県一区制度については、選ばれる学校づくりと併せて、引き続き現状の把握に努め、検証を行うことと記載しています。

今回、「通学区域制度検証委員会」を設置し、全県一区導入後の地域を超えた中学生の高校進学状況、あるいは学校の特色づくりの状況、さらに生徒や保護者の声、アンケート等を踏まえながら、本県の通学区域制度について検証するとともに、今後の在り方について検討を進めるといふものです。

(2) 委員については、2ページに委員を一覧で示していますが、学識経験者や産業界、市町村、学校関係と幅広い分野から、多角的なご意見をいただきたいと考えています。

(3) 主な検討事項については、通学区域制度の在り方に関する事項以外にも、高校の魅力づくりに関する事項や、地域における教育の質の担保に関する事項など、幅広くご意見をいただきたいと思っています。

(4) は今後の予定について記載しています。予定では、8月下旬から9月上旬に第1回を開催したいと考えています。年度内に3回実施し、報告をまとめたと思います。

1ページ目下半分については、2「通学区域制度検証ワーキンググループ」について、記載しています。

先ほど、お伝えした「通学区域制度検証委員会」に先立ちまして、教育庁内のみならず、知事部局からもご参加いただきながら、幅広くご意見をいただくとともに、検証委員会の開催に向けた論点整理を行っていきたいと考え、設置をしています。

主な検討事項としては、同じものではありませんが、特に生徒・保護者へのアンケートの内容についても、検討を進めていきたいと思っています。

(4) 設置期間ですが、ワーキンググループにつきましては、本年6月に設置し、2回目を終了し、現在進めている状況です。

2ページ目は、委員の名簿です。上段が、検証委員会の委員の名簿ですが、学識経験者は、教育学を専門とした大分大学の住岡教授と、県立高校の第三者委員を務めていただき、地域の高校をみてこられた日本文理大学の吉村副学長にご参加いただき、幅広い視点に立ったご意見をいただきたいと考えています。その他にも、名簿に記載した方々にご参加いただくように計画し、進めています。

その下は、ワーキンググループの名簿です。

以上です。

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

以前、生徒・保護者対象に取ったアンケート結果をビジョン検討委員会で提示した際、どのような意見が出たか、どのような方向性で話し合っていくようになった

のかを教えてください。

(小野高校教育課長)

前回の令和4年9月のアンケートについて、ビジョン検討委員会でご意見をいただきました。生徒・保護者のアンケートから、生徒の主体的な進路選択を尊重することが進んでいると評価をいただきました。

ただ、併せて、地域の高校の欠員状況や、地方創生の観点から、全県一区制度にはメリット・デメリットがありますので、このデメリットをどのように解消していくかという観点で話し合いを進めていただきたいと考えています。

(山田教育長)

ほかに、質問はありませんか。

全県一区制度については、現状を客観的データに基づいて検証してもらうようにしています。そのため、何かを決定するというものではありませんので、よろしくをお願いします。

## 【協 議】

### 令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(13課室〔教育改革・企画課、教育デジタル改革室、教育人事課、教育財務課、福利課、学校安全・安心支援課、義務教育課、特別支援教育課、高校教育課、社会教育課、人権教育・部落差別解消推進課、文化課、体育保健課〕入室)

(山田教育長)

次に、協議第1号「令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」提案しますので、教育改革・企画課長から説明をしてください。

(鈴木教育改革・企画課長)

#### <説明概要>

- ・点検・評価の枠組(趣旨、点検・評価の実施方法、報告方法など)
- ・目標指標の達成状況
- ・達成率が「著しく不十分」「不十分」となった指標
- ・令和6年度大分県長期教育計画委員会における主な意見

(山田教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

以前から子どもの読書離れについては話を聞いていますが、電子書籍を読む子どもも少ないですか。

(黒木課長補佐(総括)兼主任社会教育主事〔社会教育課〕)

例えば県立図書館では、電子書籍を利用するためのIDを高校生などに付与しており、生徒が調べ物学習に活用しています。一定数の生徒は電子書籍を読んでいるものと考えています。

(高橋委員)

小学校等を訪問すると、PTA等の方が読み聞かせをしてくれています。このことによる効果を測ったデータはありますか。

(黒木課長補佐(総括)兼主任社会教育主事〔社会教育課〕)

読み聞かせを通じて子どもたちが本を読むことの楽しさを知ることができるといった効果は認識しています。コロナ禍を経て、読み聞かせを実施する学校も減ったため、今後も子どもたちに本を読む楽しさを伝えることができる、読み聞かせも含めた活動に取り組んでいきたいです。

(高橋委員)

今は様々な情報が溢れていますし、子どもたちもスマートフォンを使って情報を容易に入手することができます。一方で、自分で辞書を引くことが少なくなったのではないかと思います。辞書を引くことで得られる知識もたくさんありますので、このような取組も進めてほしいですし、良い事例があれば今後教えてください。

(岩武委員)

読書の目的を問い直す必要があると思います。読書は読解力や考える力の向上につながりますし、自身の世界を広げ、感性を育ててくれるといったような効果があると思います。一方、これまでも様々な取組がなされてきましたが、なかなか効果が上がっていません。なぜ、効果がないのか分析する必要があります。

字や文章を読むことが苦手と感じている子どもが増えていると感じます。そのため、授業を通じて読解力をいかに育てていくかが重要です。幼稚園や小学校段階から取組を進める必要があります。読解力を育てるための取組を次期長期教育計画に取り入れてほしいです。

また、インターンシップについては、企業だけの問題ではなく学校側にも問題があると思います。推測ですが、長期間のインターンシップになると様々な問題が生じる可能性があるため、学校側も腰が引けているのではないかと思います。インターンシップの目的や効果を改めて検証してみて、やはり必要であると教育委員会が判断するのであれば、しっかりとイニシアティブを取って進めていく必

必要があります。その上で、高校教育課には学校と企業の橋渡しをお願いします。

(小野高校教育課長)

インターンシップは社会とのつながりの中で生徒の学びを深めていく非常に重要な取組であると考えています。委員のご指摘を参考に、学校の取組の状況について確認していく必要があると考えています。

(岩崎委員)

以前、ビブリオバトルを聞いて感動した記憶があります。例えばビブリオバトルで優秀な賞を取った生徒が読書の良さを発信するような取組をしてみてもいいのではないでしょうか。

また、小学校の推薦図書の本子を見たことがあります。これを活用すれば多くの子どもたちに本をとってもらえるのではないかと思います。現在の活用状況を教えてください。

(黒木課長補佐(総括)兼主任社会教育主事〔社会教育課〕)

ビブリオバトルで優秀な賞をとった生徒が読書の良さを発信する取組については参考にしたいと思います。推薦図書ですが、県立図書館等で推薦リストがついた読書日記帳を毎年度子どもに配布しています。

(岩崎委員)

推薦図書は先生方の視点からの推薦となるのでしょうか。それとも子どもたちの意見を反映したのでしょうか。

(黒木課長補佐(総括)兼主任社会教育主事〔社会教育課〕)

推薦図書は県立図書館の司書等、大人の視点からの推薦になると思います。

(岩崎委員)

大人の視点と子どもの視点がずれる可能性もあります。子どもの視点を踏まえて推薦図書のリストを作る等も検討していただければと思います。

(鈴木委員)

大人が推薦する本と図書館で人気がある本は異なると思います。子どもたちに人気がある本を学校司書が取り寄せたりして学校図書館に全部揃えているような環境を小学校でしっかりと作ることで、中学生になっても本を読む習慣が身に付くのではないのでしょうか。一方で、高校生になると読書をする時間がありません。例えば朝学習の時間を読書の時間に充てるなど、読書ができる時間をしっかりと確保する必要があると思います。

インターンシップについては、企業側からすると4日以上受け入れる余裕はありません。生徒が自身のことを企業の人に伝えるという、企業側とのコミュニケ

ーションを図る点ではとても重要だと思います。一方で、企業としても見学や簡単な作業しか経験させることができないため、送迎に係る金銭的な負担や教員の見回りの負担等を考慮すると時間の有効な使い方という点で疑問を感じます。企業側は生徒に怪我がないように注意を払う必要がありますし、生徒の命を預かっているとんでも過言ではありません。そのため、学校側がインターンシップの意義や目的をしっかりと企業側に伝えて協力を求める必要があります。

また、先ほどの読書の件もそうですが、目標を掲げて学校に対応を求めると、学校側の負担が非常に大きくなります。もう少し全体を見回して、子どもにどんな経験をさせたいのか、そのためには何が必要か、子どもから意見を聞いてもよいと思いますが、考えていく必要があります。

それぞれの指標についても、達成できなかった理由や必要性等を踏まえ、学校現場への負担も考慮してしっかりと見直しをすることが重要だと思います。

(高橋委員)

高校生が、望んだ企業でインターンシップができているかが企業にとっても大事だと思いますので、生徒の意向も踏まえて実施してほしいです。

(小野高校教育課長)

インターンシップは学校の学びと並行して、できる限り長期で実施することが望ましいという方向性を国が示しています。生徒からは企業の希望をとっていますが、調整が必要な場合もありますので、必ずしも希望先に行けるとも限りません。インターンシップについては、導入部分から、実習1、実習2など段階的に取組むため、どうしても日数が必要になりますが、企業側の都合もありますので、そうした声も参考にしながら取組を進めていきたいと思っています。

(山田教育長)

他にありませんか。

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めていきます。

(山田教育長)

最後にその他、何かありますか。

それでは、これで令和6年度第9回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。